



# 2023年3月期 決算説明資料

株式会社 駒井ハルテック 証券コード：5915

2023年6月2日

## 目次

1.	会社概要・強み	—————	P. 3
2.	2023年3月期 決算概要	—————	P. 11
3.	2024年3月期 業績予想	—————	P. 19
4.	中期経営計画2023の概要	—————	P. 21
5.	Appendix	—————	P. 40

# 会社概要・強み



## ■ 会社概要

### 街をつなぐ・支える・守る

商号	株式会社駒井ハルテック（英訳名 KOMAIHALTEC Inc.）
設立	1883年（明治16年）創業
本社所在地	東京都台東区上野一丁目19番10号
従業員数	633名（2023年3月31日現在）（連結）
資本金	66億1,994万円（2023年3月31日現在）
事業内容	<p>【橋梁事業】 橋梁の設計・製作及び現場架設、鋼橋の現場工事の施工及び維持補修</p> <p>【鉄骨事業】 鉄骨・鉄塔の設計・製作及び現場建方</p> <p>【インフラ環境事業（再生可能エネルギー・海外インフラ事業）】 風力発電システム及び太陽光発電システムの設計、製作、施工</p>
関連会社	<p>【連結子会社】</p> <p>東北鉄骨橋梁（株）・・・ 鉄骨・橋梁</p> <p>（株）シップス・・・ 印刷・不動産</p> <p>KHファシリテック（株）・・・ 鉄骨・橋梁</p>



## ■ 経営理念

# 夢を架け 空間を創る

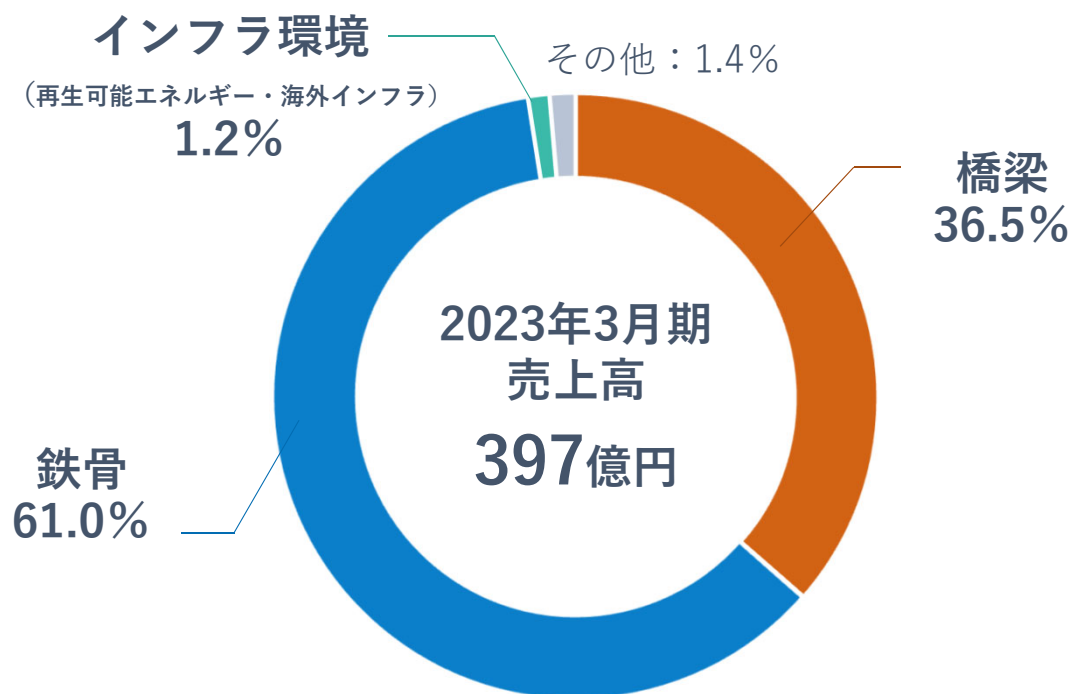
## 経営理念

### 高い技術力で夢のある社会づくりに貢献する

顧客のニーズに応え、安全で高品質な製品・技術を提供することで  
社会インフラをささえる企業

## ■ 売上構成

「橋梁」と「鉄骨」に軸足をおき、安全安心なインフラで社会に貢献し続ける  
数少ない企業



### 橋梁事業

鋼橋の設計・製作・現場施工、橋梁の  
予防保全・維持補修工事にも取り組む

### 鉄骨事業

超高層ビルをはじめとした  
数多くの著名建築物に鉄骨を納入

### インフラ環境事業

(再生可能エネルギー・海外インフラ事業)

日本唯一の中型風車メーカーとして、  
国内外の厳しい気象、立地条件でも  
トータルサービスを提供

## ■ 橋梁 業界トップクラスの橋梁メーカー

- 耐震補強・老朽化等の補修・補強工事でも、安心・安全な社会づくりに貢献
- 近年は鋼橋分野だけでなく、鋼・コンクリート複合橋梁や老朽化した橋梁の長寿命化のための予防保全工事などにも積極的に取り組む



### 市場環境

- 橋の新設・メンテナンスを含む土木工事需要の増加
  - 国土強靱化策に伴い高速道路・鉄道などの橋梁工事の増加
  - 高度成長期に建設された橋梁のメンテナンス需要が増加
  - 大阪湾岸道路西伸部や高速道路の4車線化などインフラ整備が進行中



### 橋梁建設のワンストップソリューション

積算から現場施工まで橋梁建設のすべてを担う



## 鉄骨 国内有数の「Sグレード」認定2工場を保有

- 鉄骨の業界トップ企業として、官公庁庁舎や超高層オフィスの建設に貢献
- BIM設計、製造、施工まで、すべての工程を担うことが可能
- 溶接加工などの施工データの蓄積をベースに、客先から評価される高度な技術を保有



### 市場環境

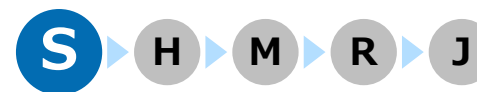
#### ■ 高度な技術を要する大型案件の増加

- 東京オリンピック・パラリンピックで延期されていた首都圏再開発案件が再開
- 日本橋、八重洲、品川、新宿、渋谷、六本木などで超高層ビル建設が今後目白押し
- 高度成長期に建設された建造物の維持管理需要が増加



### 2工場でSグレード認定を取得し大型案件に参画

工場グレード



超高層ビルの難易度の高い鉄骨製作が可能なのは  
Sグレード工場のみ

板厚の制限  
なし

高度な  
溶接技術

万全な  
品質保証体制

- 国土交通省の厳しい審査を経て認定
- 当社グループの2工場を含め、日本国内では20工場のみ（2023年4月1日現在）



インフラ環境  
(再エネ・海外インフラ)

## 唯一国内で風車製造、電力需要に合わせた地域マイクログリッドに対応

- 橋梁・鉄骨事業で培った高度なノウハウを活かし、日本の風土に適した風力発電システムを製造、建設、17年の実績
- 風況調査から建設工事、保守点検まで、トータルソリューションを提供
- 離島のマイクログリッドにも対応



### 市場環境

#### ■ 風力発電のニーズが増加

- ・ 環境にやさしいクリーンなエネルギー
- ・ 政府による導入目標の明示
- ・ 大量投入・コスト低減・経済波及効果期待など

#### ■ 中型風車のニーズが増加

- ・ 離島や日本に多い山岳地にも対応可能
- ・ 大型に比べて建設が容易

など

### 過酷な地形・気象条件に適した風車の開発

大型機が導入できない離島や遠隔地での導入が可能

#### 中型風力発電機「KWT300」開発

- 台風仕様
- 標準仕様
- 寒冷地/極寒冷地仕様



台風や乱気流に強い

高い輸送効率と施工性

電力系統へスムーズに接続

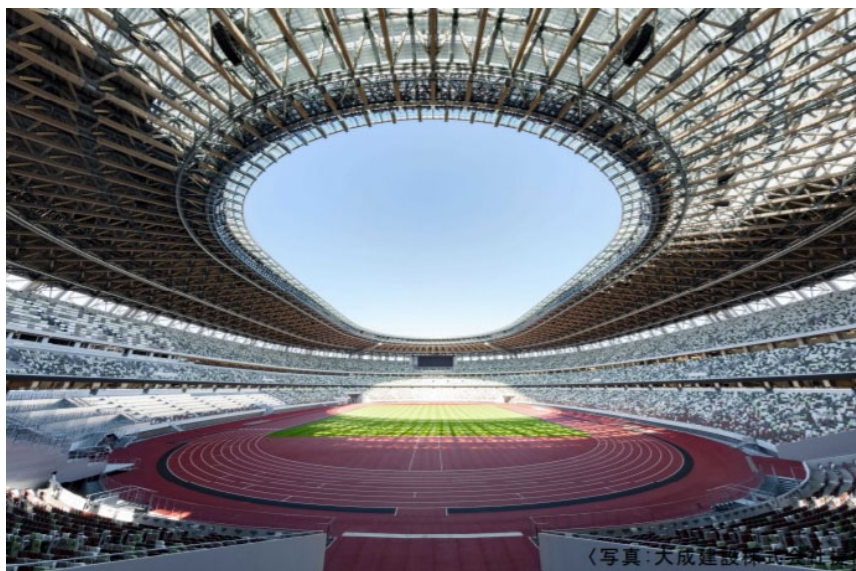
- ・ 世界でも類を見ない毎秒90mの対風速を実現
- ・ 厳しい気象条件下で安定した性能を発揮

## ■ 事例紹介

官公庁庁舎、教育・文化施設、大規模生産施設など多くの著名建築物に  
当社グループの製品が納められています

国立競技場

2019年



大成建設株式会社様提供

東京スカイツリー®

2012年



# 2023年3月期 決算概要



## ■ 決算のポイント

2023年3月期

売上高	営業利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
39,727百万円 前期比：+34.4%	315百万円 前期比：△79.1%	328百万円 前期比：△75.6%

- 売上高は、各事業セグメントで前期を上回った
- 損益面では、工期遅延の発生、追加変更交渉の継続、インフラ環境事業における試験研究費の増加などにより、利益水準は低調であった



## 損益計算書

(単位：百万円)

	2022年3月期		2023年3月期		対前期増減	前期比
	実績		実績			
売上高	29,552		39,727		+10,175	+34.4%
営業利益	1,510		315		△1,194	△79.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,345		328		△1,016	△75.6%
一株当たり当期純利益	289.12円		70.52円		△218.60円	△75.6%
ROE	4.7%		1.1%		△3.6Pt	—
受注高	51,402		47,159		△4,243	△8.3%
橋梁事業	21,703	構成比 42.2%	18,584	構成比 39.4%	△3,118	△14.4%
鉄骨事業	29,382	構成比 57.2%	28,207	構成比 59.8%	△1,175	△4.0%
インフラ環境事業	316	構成比 0.6%	367	構成比 0.8%	+50	+16.1%
受注残高	56,959		64,931		+7,971	+14.0%
橋梁事業	25,531	構成比 44.8%	29,620	構成比 45.6%	+4,089	+16.0%
鉄骨事業	31,224	構成比 54.8%	35,194	構成比 54.2%	+3,969	+12.7%
インフラ環境事業	203	構成比 0.4%	116	構成比 0.2%	△86	△42.7%



## ■ 橋梁事業

(単位：百万円)	2022年3月期	2023年3月期		
	実績	実績	対前期増減	前期比
売上高	12,374	14,495	+2,120	+17.1%
セグメント利益	1,544	1,128	△416	△27.0%
受注高	21,703	18,584	△3,118	△14.4%
受注残高	25,531	29,620	+4,089	+16.0%

- 売上高は前期比 +17.1% 増加
- 損益面では、前期に利益貢献した大口追加変更の反動で前期比 △27.0% 減益
- 受注残高は引き続き高水準を確保

## ■ 鉄骨事業

(単位：百万円)	2022年3月期	2023年3月期		
	実績	実績	対前期増減	前期比
売上高	16,487	24,237	+7,749	+47.0%
セグメント利益	1,236	691	△545	△44.1%
受注高	29,382	28,207	△1,175	△4.0%
受注残高	31,224	35,194	+3,969	+12.7%

- 売上高は、大型再開発工事で前期比 +47.0% 増加
- 一部大型工事で工期遅延が発生し、損益面では苦戦し前期比 △44.1% 減益
- 受注残高は首都圏を中心とした再開発案件で高水準が続く

## ■ インフラ環境事業（再生可能エネルギー・海外インフラ事業）

	2022年3月期		2023年3月期	
	実績	実績	対前期増減	前期比
売上高	130	454	+323	+247.1%
セグメント利益	△203	△442	—	—
受注高	316	367	+50	+16.1%
受注残高	203	116	△86	△42.7%

- 売上高は前期比増加となるも、風車開発の試験研究費が増加し赤字幅拡大
- 新機種の世界投入に向けた取り組みを加速

## 貸借対照表

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	主な増減要因
流動資産	31,600	38,891	<ul style="list-style-type: none"> <li>現金預金 <math>\Delta 4,455</math></li> <li>受取手形・完成工事未収入金及び契約資産 +9,736</li> </ul>
固定資産	20,925	22,236	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他有形固定資産 +1,185</li> <li>減価償却累計額 <math>\Delta 434</math></li> <li>のれん <math>\Delta 305</math></li> <li>投資有価証券 +459</li> </ul>
<b>資産合計</b>	<b>52,526</b>	<b>61,127</b>	
流動負債	13,847	20,687	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子記録債務 +3,728</li> <li>短期借入金 +2,205</li> </ul>
固定負債	9,135	10,577	<ul style="list-style-type: none"> <li>社債 +590</li> <li>長期借入金 +322</li> </ul>
<b>負債合計</b>	<b>22,982</b>	<b>31,265</b>	
純資産合計	29,543	29,862	<ul style="list-style-type: none"> <li>退職給付に係る調整累計額 <math>\Delta 70</math></li> <li>その他有価証券評価差額金 +331</li> </ul>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>52,526</b>	<b>61,127</b>	

## ■ キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2022年3月期	2023年3月期	当期の主な内容
営業活動による キャッシュ・フロー	4,816	△6,497	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上債権の増減額 (△は増加) △10,869</li> <li>仕入債務の増減額 (△は減少) +4,617</li> </ul>
投資活動による キャッシュ・フロー	37	△643	<ul style="list-style-type: none"> <li>固定資産の取得による支出 △1,104</li> <li>補助金の受取額 +446</li> </ul>
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,446	2,682	<ul style="list-style-type: none"> <li>短期借入金の純増減額 (△は減少) +3,100</li> <li>社債の発行による収入 +2,457</li> </ul>
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	3,411	△4,455	
現金及び現金同等物の 期末残高	12,338	7,883	



# 2024年3月期業績予想



## 損益計算書

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期		
	実績	予想	対前期増減	前期比
売上高	39,727	54,000	+14,273	+35.9%
橋梁事業	14,495	20,250	+5,755	+39.7%
鉄骨事業	24,237	32,200	+7,963	+32.9%
インフラ環境事業 (再生可能エネルギー・海外インフラ事業)	454	1,000	+546	+120.3%
営業利益	315	900	+585	+185.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	328	600	+272	+82.9%

### ■ 業績予想の根拠

- 橋梁、鉄骨ともに高水準の受注残高を背景に売上高増加を見込む
- 損益面は、売上高増加の影響と生産性向上の効果で増益を見込む

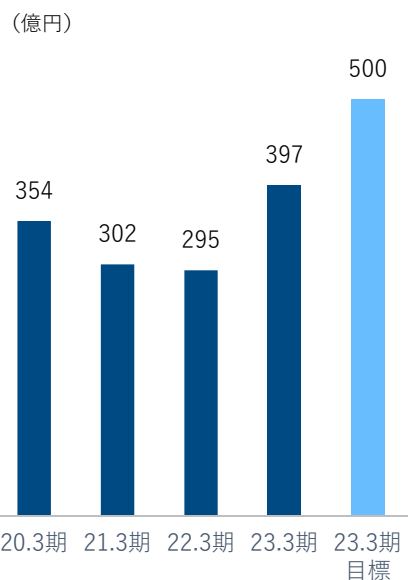
# 中期経営計画2023の概要



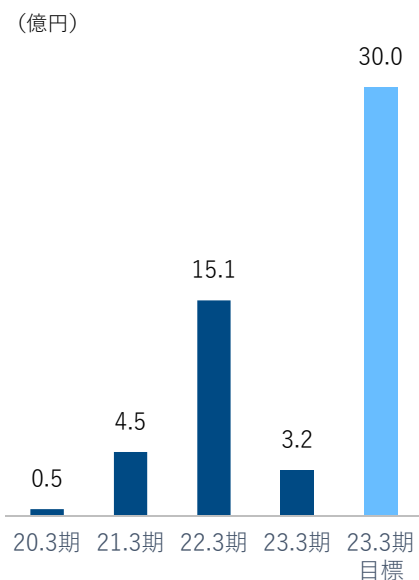
## ■ 中期経営計画の振り返り（1）

- 新型コロナウイルス感染症拡大、東京オリンピック、パラリンピック延期による首都圏再開発事業の繰り延べなど、策定時には想定していなかった要因発生により売上高は目標未達。
- 想定以上の鋼材価格急騰により工事原価が急上昇し、利益面は目標を下回る。
- 最終年度末に受注残高は積み上がり、今後に期待。

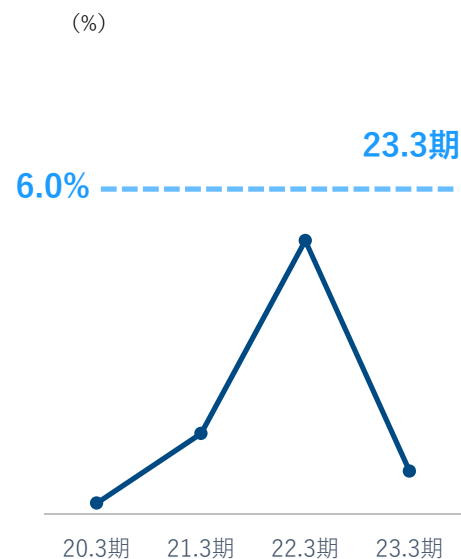
売上高



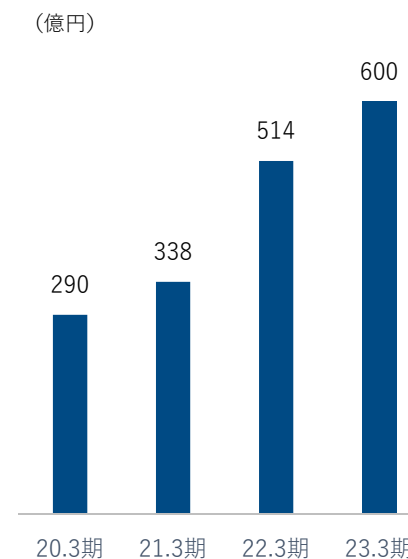
営業利益



営業利益率



受注残高





## ■ 中期経営計画の振り返り（2）

### ■ 事業セグメント別の状況について

#### 橋梁事業

- 計画期間中の2022年3月期に利益目標達成も、業績には波があり、発注動向に適合した安定受注に課題
- 鉄道関連の土木鉄骨で実績、さらに事業領域の拡大を目指す

#### 鉄骨事業

- KHファシリテック(株)買収により、新たに特殊鋼構造物領域を獲得
- 鉄骨端境期の影響を受けたが、最終年度は首都圏再開発事業を中心に受注が積み上がり

#### インフラ環境事業 (再生可能エネルギー・ 海外インフラ事業)

- 陸上風車の納入実績は乏しかったが、ラインアップ拡充開発を推進
- 新たに洋上風車タワー製造への進出を意思決定し、補助金獲得を目処に具体化に着手

#### その他

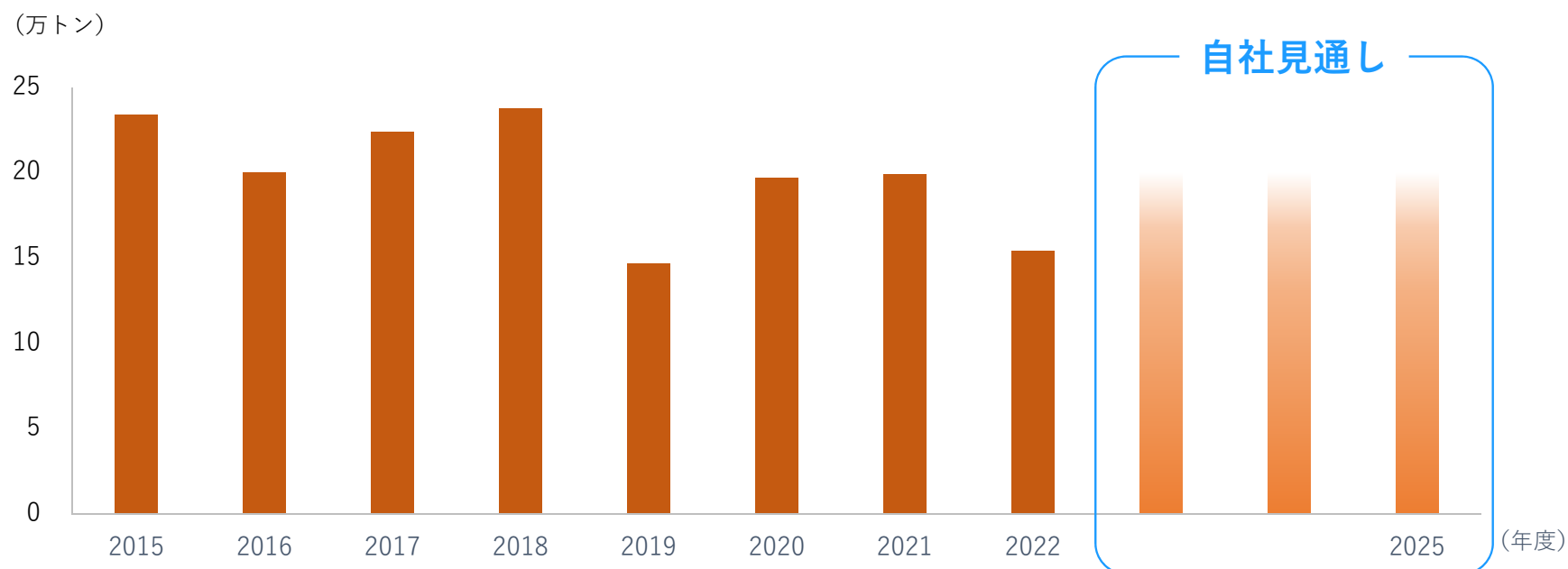
- キャッシュフロー安定運営を遂行
- 独立社外取締役増員をはじめ、各種ガバナンス向上施策を実施
- 若年層活性化に取り組むため、「KH未来づくりプロジェクト」を発足



## ■ 事業環境の見通し（1）橋梁事業

- 近時は年間発注量15～20万tの水準にて推移。また、金額ベースでは補修保全の割合が増加。
- 中期経営計画2023の期間中は、大阪湾岸道路西伸部といった大型発注が見込まれ、年間20万tレベルの発注推移を見込む。

### 鋼橋発注量の推移

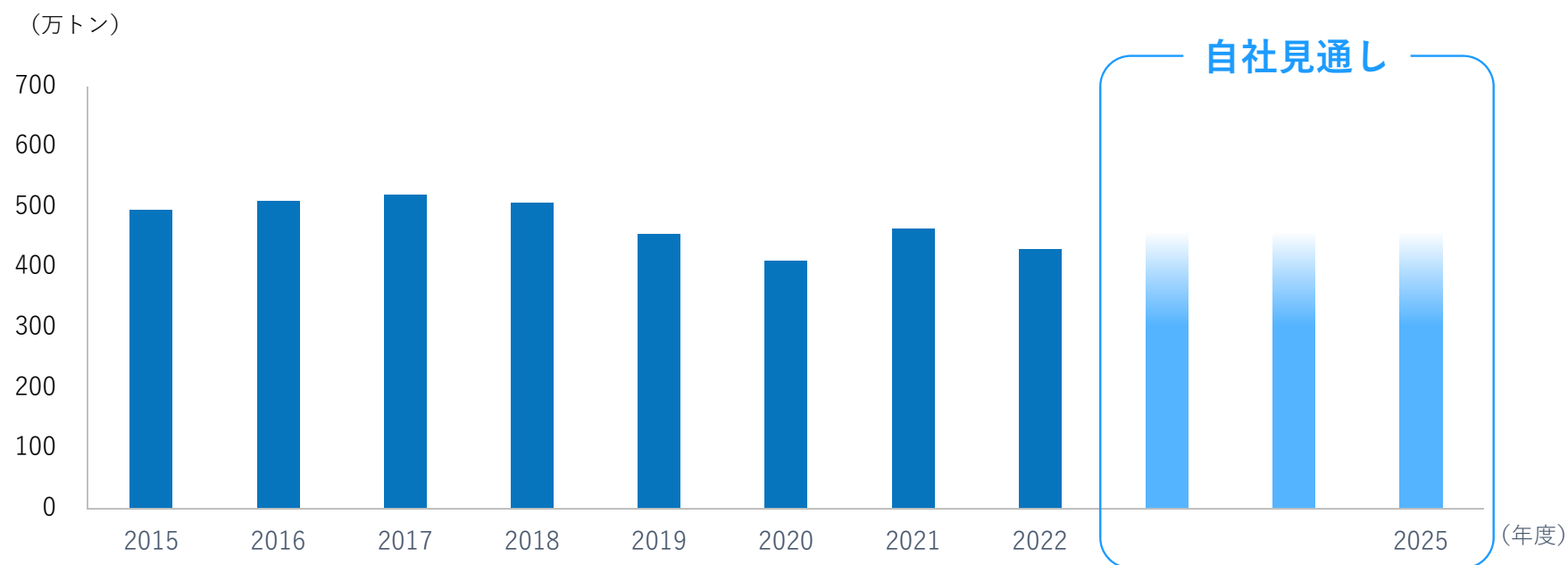


(出典) 一般社団法人日本橋梁建設協会「耐候性鋼橋実績資料集」より抜粋

## ■ 事業環境の見通し（2）鉄骨事業

- 中期経営計画2023の期間中は、460万tレベルの安定推移が見込まれる
- 首都圏再開発の高層ビル事業が活発化し、Sランク工場を有する当社が優位性を発揮できる市場は、活況となることが見込まれる。

### 鉄骨需要の推移



(出典) 一般社団法人日本鉄鋼連盟 建築委員会「鉄骨建築関連統計・図表」

# ■ 建設中・計画中の再開発プロジェクト一覧

## ■ 日本全国で大型再開発が続く

### 東京

#### 東京駅周辺

- ・ 八重洲一丁目東B地区再開発事業（2025年）
- ・ 八重洲一丁目北地区再開発事業・南街区（2029年）
- ・ 八重洲二丁目中地区再開発事業（2028年度）
- ・ 内幸町一丁目街区南地区（サウスタワー：2029年）
- ・ 内幸町一丁目街区中地区（セントラルタワー：2029年）
- ・ 内幸町一丁目街区北地区（ノースタワー：2030年）
- ・ 日本橋一丁目中地区再開発事業・C街区（2025年度）
- ・ 日本橋一丁目東地区開発・A街区（2030年度）
- ・ 日本橋一丁目1・2番地区開発・A街区（2032年度）
- ・ トウキョウ トーチ・トーチタワー(常盤橋プロジェクト)（2027年）
- ・ 新TODAビル計画新築工事（2024年）
- ・ 外神田1,2,3番再開発・A街区（2028年度）

#### 赤坂・虎ノ門

- ・ 赤坂二丁目プロジェクト（一期：2024年・二期：2025年）
- ・ 赤坂二丁目計画(国際赤坂ビル建替事業)（2024年）
- ・ 赤坂二・六丁目地区開発計画（2028年度）
- ・ 虎ノ門一丁目東地区再開発事業（2026年度）

#### 浜松町・品川・田町・芝浦

- ・ 品川駅西口地区A地区（2026年）
- ・ 品川駅西口地区C地区（2027年）
- ・ 品川開発プロジェクト・4街区（2025年）
- ・ 品川開発プロジェクト・3街区（2025年）
- ・ 東工大田町キャンパス土地活用事業・施設A（2030年度）
- ・ 芝浦一丁目計画新築工事N棟（2030年）

#### 渋谷・新宿・五反田・池袋

- ・ 渋谷二丁目西地区再開発事業・B街区（2029年度）
- ・ 道玄坂二丁目南地区再開発事業（2026年度）
- ・ 西新宿一丁目地区プロジェクト(明治生命安田ビル他跡地)（2025年）
- ・ 新宿駅西口地区再開発事業（2029年度）
- ・ 東五反田2丁目計画（2024年）
- ・ 東池袋一丁目地区再開発事業（2026年度）

### 横浜

- ・ 横浜市現市庁舎街区活用事業（2025年）
- ・ みなとみらい21 中央地区52街区開発事業（2026年）
- ・ みなとみらい21 中央地区62街区開発事業（2026年）
- ・ 関内駅前港町地区再開発事業（2029年度）

### 仙台

- ・ 仙台市新本庁舎建替（2028年度）

### 札幌

- ・ 札幌駅交流拠点北5西1西2地区市街地再開発事業（2028年度）

※（ ）は竣工予定年度

## ■ 事業環境の見通し (3) インフラ環境事業

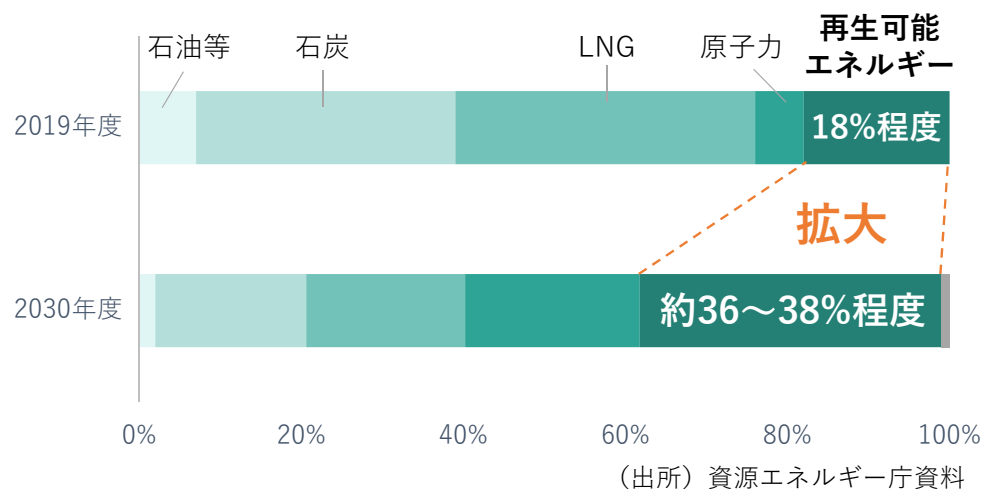
- 第1次洋上風力産業ビジョンにて、2030年までに10GW、2040年までに30～45GW、国内調達比率目標60%を目指すことが明記された。
- 洋上風力発電は、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた切り札として期待され、その市場拡大が見込まれる。

### エネルギー基本計画 (第6次)

※資源エネルギー庁・2021年10月発表

#### 再生可能エネルギーの構成比が上方修正された

##### 再生可能エネルギー電源構成推移



#### 風力発電の国産化を進める方針

##### 洋上風力産業ビジョン(第1次)

※洋上風力の産業競争力強化に向けた官民協議会

2020年12月発表



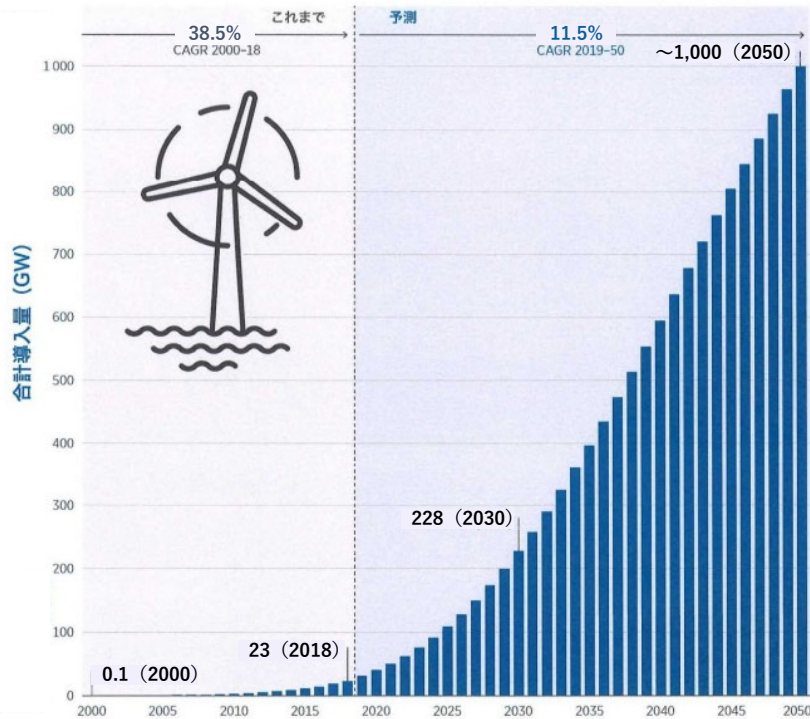
# 事業環境の見通し (3) インフラ環境事業

## 世界

急伸長する世界の洋上風力発電

2050年までに1,000GWの導入が見込まれる

■ 世界全体洋上風力導入量



Source : IRENA 2019a, Future of Wind

Historical values based on IRENA's renewable capacity statistics (IRENA, 2019d), future projections based on IRENA's analysis (IRENA, 2019a).

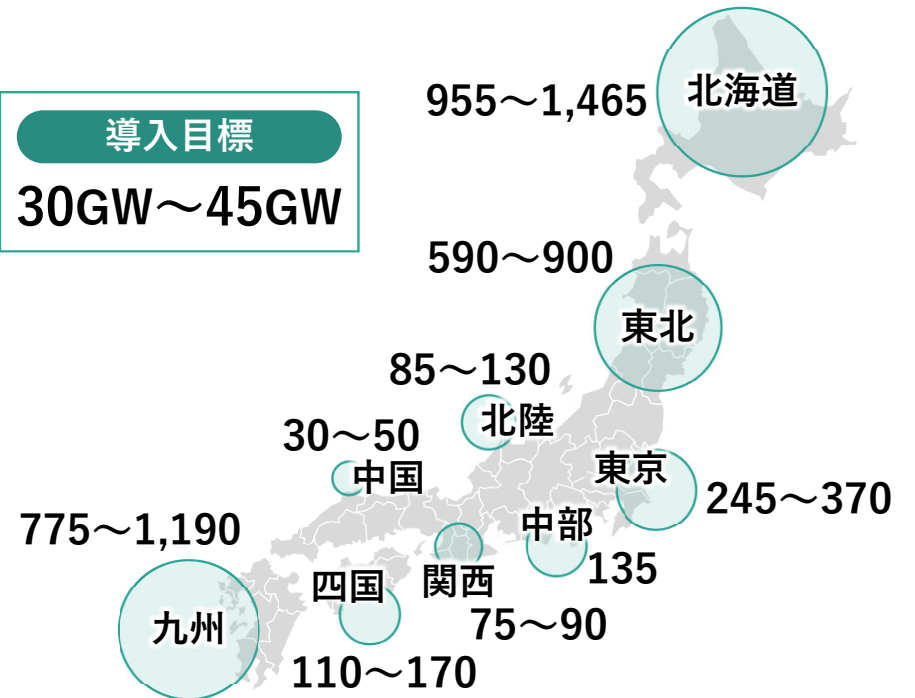
## 日本

国内の洋上風力発電導入の動き

2050年までに温室効果ガスゼロを目指すことが宣言された

(単位：万キロワット)

導入目標  
30GW~45GW



(出典) 2050CN実現のための基地港湾のあり方検討会「国内外の洋上風力発電の将来展望～脱炭素の最有力手段」より抜粋  
自然エネルギー財団「洋上風力発電に関する世界の動向[第2版]」2021年6月

## ■ 中期経営計画2023 の基本方針、基本戦略

基本方針	基本戦略	
<p>「技術力とブランド力」に磨きをかけ、社会の発展に貢献する</p>	<p>受注ポートフォリオを再構築し、経営資源の活用レベルを引き上げ、事業価値の底上げを図る</p>	<p>サステナビリティ経営ならびにマテリアリティへの取り組みを通じ企業価値を高める</p>
<p>新技術の開発とDXの推進により、新たな事業モデルと市場の開拓に取り組む</p>	<p>風車ビジネスの先駆者として、新たな領域となる「洋上風車タワー」の製造にチャレンジし、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する</p>	<p>技術力の源泉となる人的資本への取り組みを強化し、働き方改革を通じて人財の活性化を図る</p>
<p>収益志向を高め、業績の飛躍的向上を果たし、あわせて企業価値を高める</p>	<p>安全と品質をベースにモノづくり改革に取り組み、大型インフラ事業での貢献を通じ収益を極大化する</p>	<p>ガバナンスと情報発信を強化し、ステークホルダーの期待に応える</p>



## 数値目標

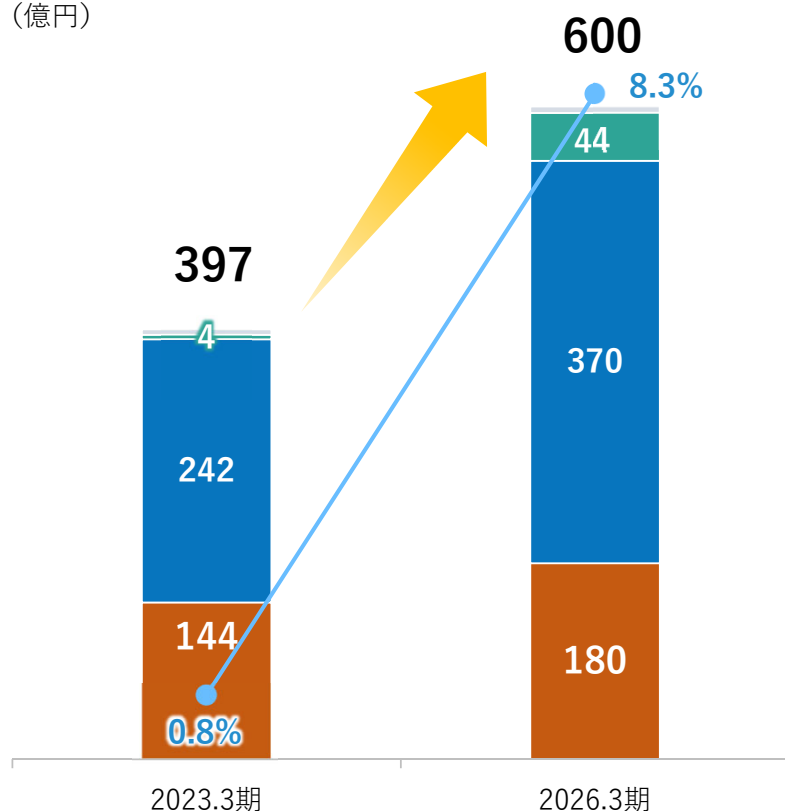
(単位：百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	2026年3月期 目標
売上高	39,727	54,000	60,000
橋梁事業	14,495	20,250	18,000
鉄骨事業	24,237	32,200	37,000
インフラ環境事業 (再生可能エネルギー・海外インフラ事業)	454	1,000	4,400
その他	539	550	600
営業利益	315	900	5,000
営業利益率	0.8%	1.7%	8.3%
経常利益	481	1,100	4,700
親会社株主に帰属する当期純利益	328	600	3,300

## 目標達成の考え方

■ 橋梁 ■ 鉄骨 ■ インフラ環境 ■ その他 ● 営業利益率

(億円)



### ■ 売上高 600億円(+203億円) のポイント

- 首都圏再開発事業の高層ビル案件を受注することにより、高操業が見込まれる鉄骨事業の売上高が370億円に(+128億円)増加
- 成長事業と位置づける風車ビジネスが成長初期段階へと入り、売上高規模が44億円に拡大

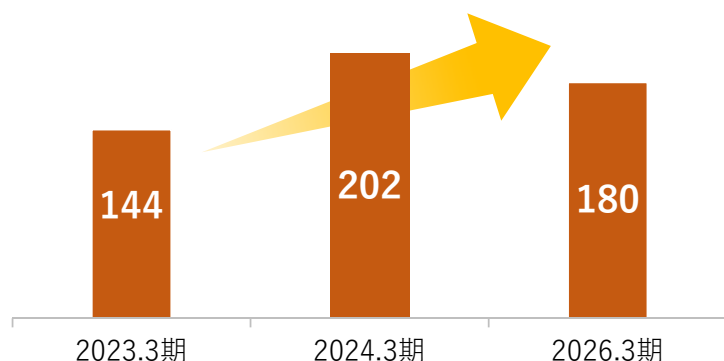
### ■ 営業利益 50億円(+47億円) 達成のポイント

- 各工場における生産性向上（工場改革）、徹底したコスト管理、橋梁事業の案件採算改善
- 営業利益率を重要な経営指標の一つとし、収益志向を高め、営業利益率を8.3%まで引き上げ

## 事業戦略：橋梁事業

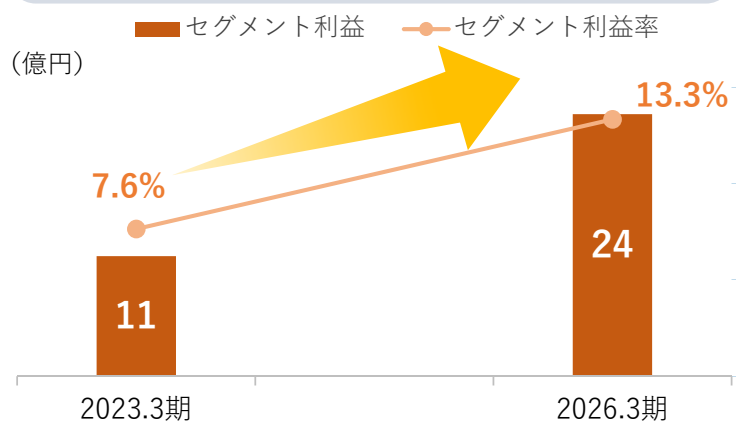
### セグメント売上高

(億円)



### セグメント利益・セグメント利益率

(億円)



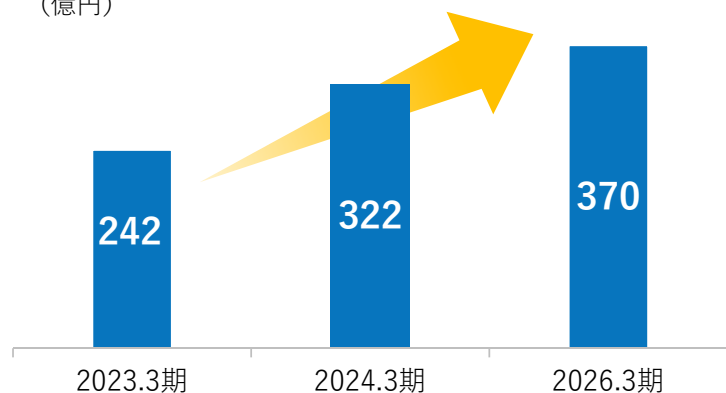
### 具体的な施策

- ◆ 大型案件の売上高ポートフォリオを高め、売上高180億円を目指す。
- ◆ 大型案件受注増強のため、技術提案力強化に向けた組織体制を構築し、各種施策を迅速に実行する。
- ◆ 案件類型毎に目標売上高と目標利益率を設定し、収益志向を高める。セグメント利益24億円以上とする。
- ◆ 利益率向上に向けて、工場改革による原価低減に取り組む。
  - ・ 3Dデータを活用したフロントローディング
  - ・ 製造工程における各種省力化の推進
- ◆ 工事施工現場、設計部署の技術者の充実を図り、対応力強化を通じて収益寄与を高める。
- ◆ 営業体制の整備を行い、新たな鋼構造物への取り組みを強化する。

## ■ 事業戦略：鉄骨事業

セグメント売上高

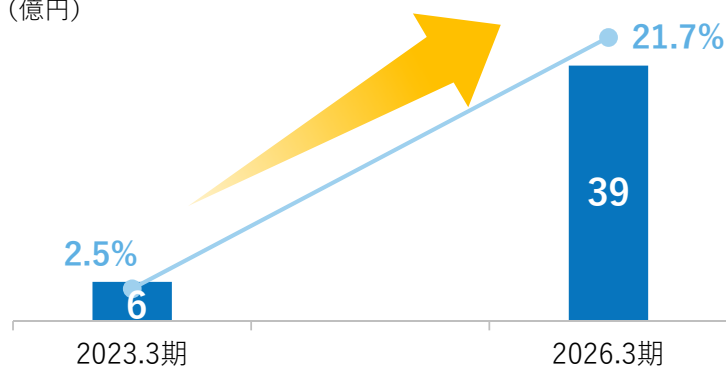
(億円)



セグメント利益・セグメント利益率

■ セグメント利益    ● セグメント利益率

(億円)



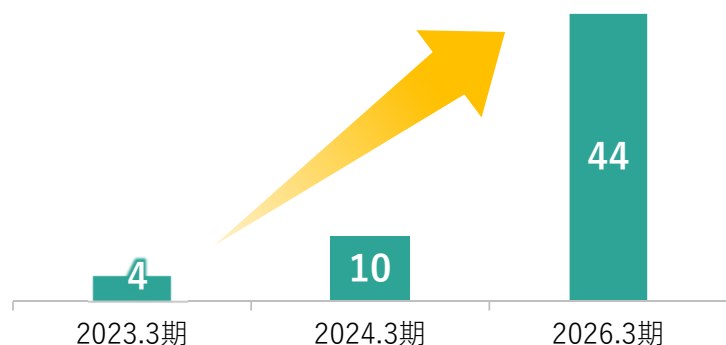
### ■ 具体的な施策

- ◆ 高難度案件への取り組みにより収益強化を果たし、技術力とブランド力をさらに向上させる。積極的な案件参画を通じ、売上高目標を370億円とする。
- ◆ 施工実績、技術研究、各種開発を積み上げ、独自の優位性を築く。
- ◆ 計画期間中は首都圏再開発の高層ビル事業などにより、高操業が見込まれるが、工場のデジタル改革に取り組み、高操業への対応と生産性改善を実現し、セグメント利益を39億円以上とする。
- ◆ 発注者との関係強化、協力業者との連携を通じて収益極大化に取り組む。
- ◆ 関係会社シナジーを追求し、案件対応力を高め、事業拡大に繋げる。

## ■ 事業戦略：インフラ環境事業

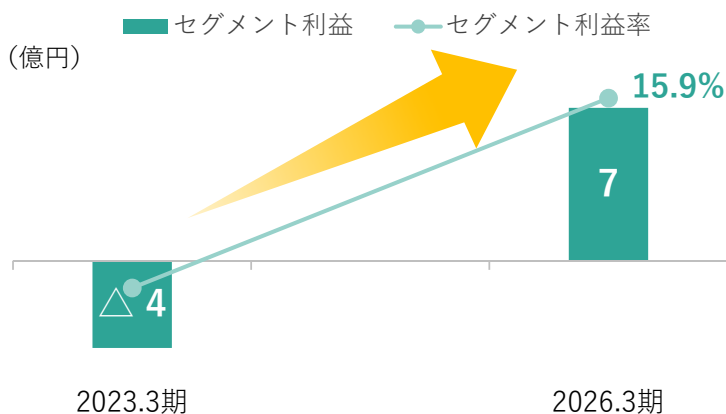
### セグメント売上高

(億円)



### セグメント利益・セグメント利益率

(億円)



### ■ 具体的な施策

- ◆ 陸上風車の販売拡大、海外インフラ開発案件への取り組みにより、売上高44億円へと大きな成長を目指す。
- ◆ 陸上風車の販売強化に向け、以下の施策を展開する。
  - ・ 陸上風車ラインアップを早期に拡充（台風仕様、寒冷地仕様、スケールアップなど）
  - ・ 国内リプレイス需要、脱炭素化ニーズへのアプローチ
  - ・ 営業体制、販売ネットワークの構築
- ◆ 陸上風車製造体制の整備増強により、製造コストを引き下げ、市場浸透を図るとともに利益体質を確立し、セグメント利益7億円以上とする。
- ◆ 次代の中核ビジネスの一つとなる洋上風車タワーの製造整備に取り組む
  - ・ 製造ライン新設に向けた大型設備投資の遂行
  - ・ グローバルメーカーとの協働を視野に要素技術を開発
  - ・ 設備利用率向上と大量生産技術の確立によるコスト低減

## ■ 人的資本戦略



各種資格取得	スキル/経験 保存	人財開発投資
知的財産	ダイバーシティ & インクルージョン	労働安全衛生

### 人的資本の考え方

- 当社グループの競争優位性の源泉は、これまでに培い継承してきた技術力である。
- その技術力を支える代表的な経営資源が人的資本である。
- 当社グループでは、人的資本への取り組みは重要な経営課題と捉え、多様な人財が最大限の能力を存分に発揮できることを目指す。

### 人的資本充実にに向けた取り組み

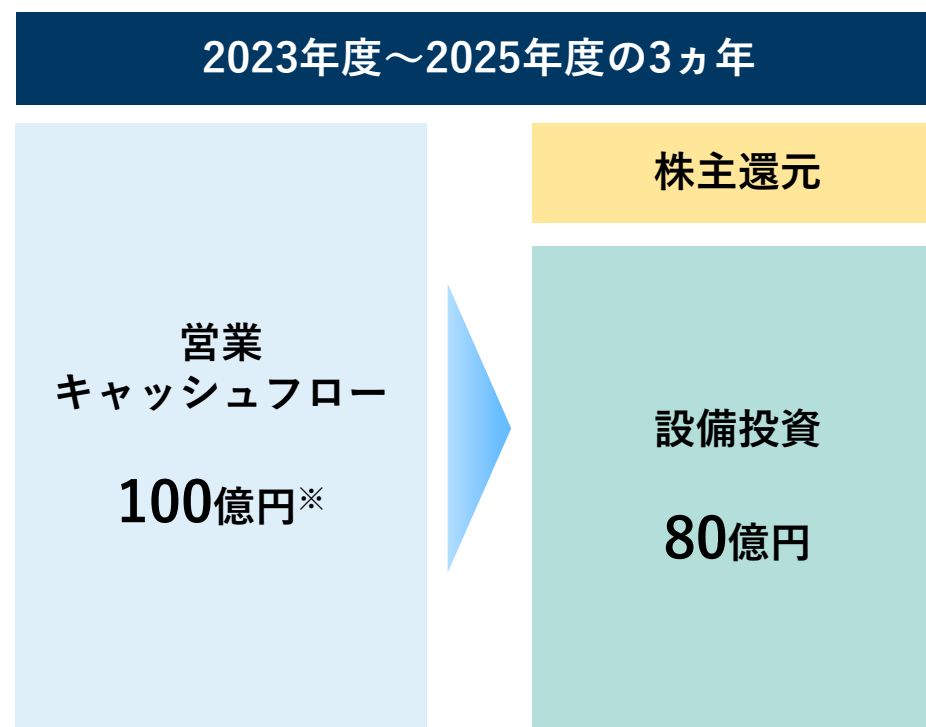
- **主要テーマ**
  - 各種資格取得の推進、高度なスキル/経験保有者の増強を通じ、技術力を背景とした案件対応力の強化を図る。
  - 人財開発、知的財産への取り組みを強化し、技術力の底上げを図る。
  - ダイバーシティ & インクルージョンを推進し、多様な人財が集い活性化した風通しのよい組織を構築する。
  - 労働安全衛生の確保に注力し、安心して働き、人財が最大限のパフォーマンスを発揮できる職場環境を整備する。
- **主な取組施策**
  - 資格取得サポート、個別キャリア指導、適性に応じたジョブローテーションなどに取り組む。
  - 状況を定量的に把握し、計画的に主要テーマを遂行する。



## ■ 資金計画

### ■ 期間中の資金、投資計画の概要

- 計画期間中の営業キャッシュフローを100億円と見込む。
- 営業キャッシュフローについては、先ず設備投資に80億円を投ずる。その主なものは、風車事業の製造設備、橋梁と鉄骨の工場改革投資である。
- 株主還元は、引き続き安定配当を基本方針としつつ、業績拡大に応じ増配も検討する。
- 期間中に発生する増加運転資金は、手元資金及び金融機関からの借入により賄う方針である。



※増加運転資金を除く

# ■ 持続的成長に向けた取り組み

## サステナビリティ基本方針

経営理念の下、「持続可能な社会の実現」と「企業の持続的成長」を両立させるサステナビリティ経営に取り組み、中長期的な企業価値向上を実現させるために、その基本方針を以下のように定める。

地球と社会に貢献する企業を目指します。

1. 地球環境の保全に取り組み、将来世代へ希望を繋ぎます。
2. 社会インフラを提供し、安全で安心な生活を支えます。
3. 人財と技術を礎に、社会課題の解決に取り組みます。
4. 高い企業倫理と企業統治により、透明公正を確保します。

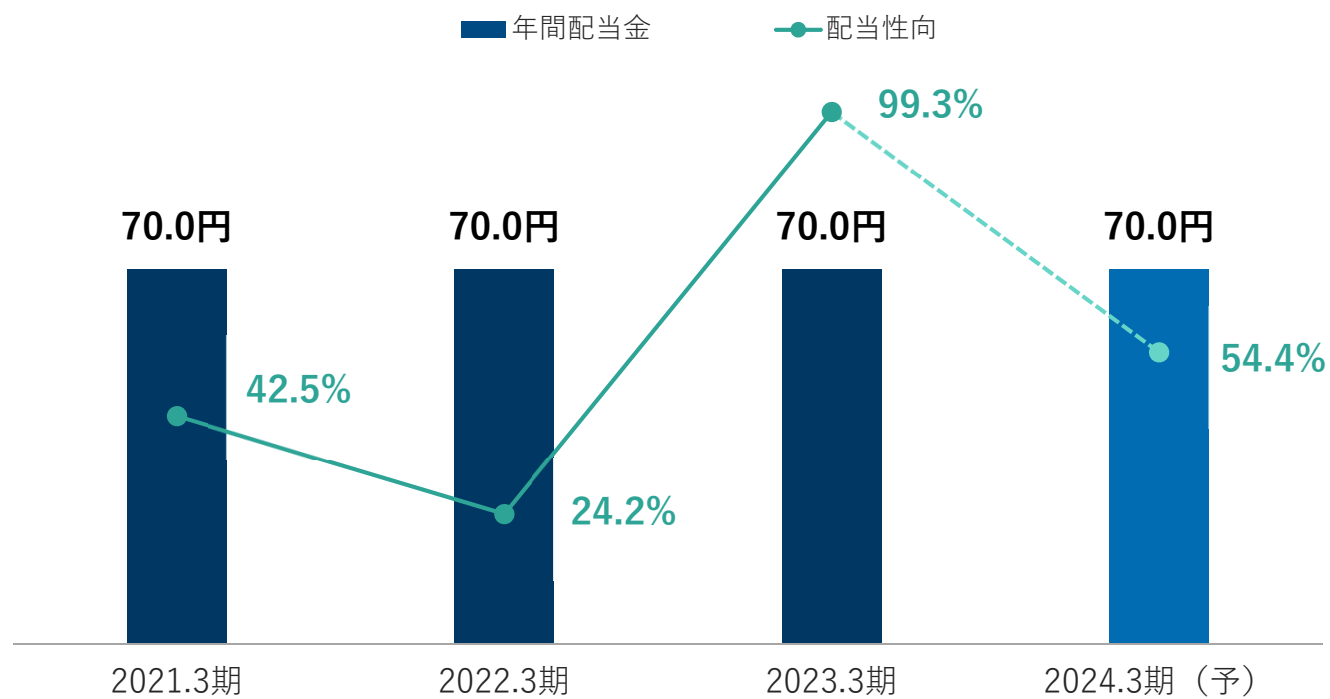
## マテリアリティ

目標	具体策	SDGs目標
カーボンニュートラル社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2 排出削減</li> <li>再生可能エネルギー施設の拡大</li> </ul>	
自然災害への対応強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害復旧対応力の強化</li> <li>協力会社を含むBCP構築</li> </ul>	
安全安心の社会インフラづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質確保（長寿命、保全更新へ対応）</li> <li>責任ある供給、効率的供給の実現</li> </ul>	
新技術開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>高難度物件への取り組み、高付加価値の提供</li> <li>新たな社会ニーズ対応、資源の効率的消費</li> </ul>	
人財開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>人財育成（キャリア支援）</li> <li>ダイバーシティ&amp;インクルージョン</li> </ul>	
労働安全衛生の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害の撲滅</li> <li>労働環境の整備、働き方改革推進</li> </ul>	
企業活動における透明性と公正性の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンスの徹底、人権尊重</li> <li>ガバナンス、リスク管理の充実</li> </ul>	

## 株主還元

### 配当方針

- 競争力向上や事業拡大の投資を行いつつも、引き続き安定配当を基本とする方針
- 業績の拡大に応じた増配も検討



## ■ コーポレートガバナンスの拡充

### 持続的成長と中長期的な企業価値向上

#### コーポレートガバナンスの更なる拡充

株主総会の利便性向上

取締役会の機能向上

株主対話の充実

経営リスク管理の強化  
コンプライアンスの徹底

サステナビリティの  
取り組み強化

情報発信の充実

# Appendix





## ■ 大型再開発プロジェクト計画【橋梁】

### ■ 未来の大規模橋梁プロジェクト計画

- 下関北九州道路  
(下関市～北九州市 約6km)
- 東京湾口道路  
(富津～三浦半島 約10～15km)



- 紀淡海峡大橋  
(紀伊半島～淡路島 約10km)



- 伊勢湾口道路  
(渥美半島～志摩半島 約20km)



### ■ 大阪湾岸道路西伸部工事 (六甲アイランド北～駒栄)

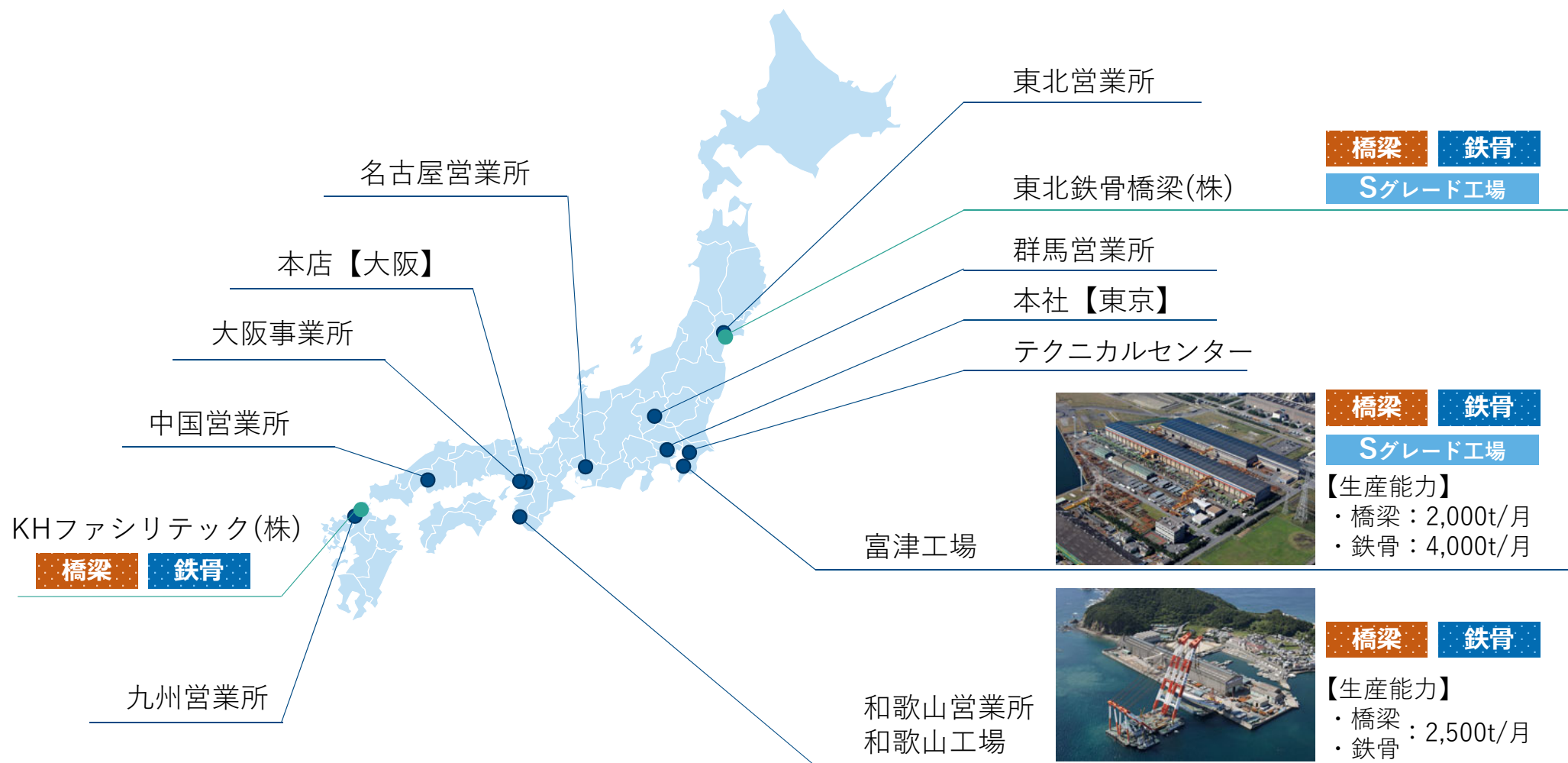




# 沿革



# 事業所・工場



# ■ 当社の中型風力発電機の概要

鋼構造分野で培った高い品質と高度な技術を活かし  
離島や山岳地などの厳しい条件にも対応可能な国産中型風車を自社開発



## 国産中型風力発電機「KWT300」

それぞれの特長を生かし、幅広い国・地域に設置可能



### ■ 導入実績

株式会社ロック・フィールド静岡ファクトリー／三浦市宮川公園／三重大学／  
産業技術総合研究所／ブータン王国 ルベッサ／  
メキシコ オアハカ州／フィリピン ロンブロン島 など

工場

施設

離島

山間部

遠隔地

極寒地

### 1 台風・乱気流・地震に強い

- 台風仕様機の耐風速：世界トップレベル  
⇒ 台風発生地域の日本やアジア太平洋地域
- 乱流強度：国際基準を上回る世界最高水準  
⇒ 日本やアジア地域

### 2 輸送性・施工性が高い

- タワー分割可+10tトラックでの輸送が可能  
⇒ トレーラーや大型クレーンを使わず輸送・建設
- ブレード長16m、ナセル18t以下のコンパクト設計  
⇒ 離島や遠隔地など

### 3 系統にやさしい

- 可変速運転、ピッチ制御で出力制御を実現
- 搭載・系統にあわせた電圧、周波数、力率調整が可能  
⇒ 離島や独立電源地域など

## ■ カーボンニュートラル社会の実現に向けた取組み

### 日本の過酷な地形や気象条件で培った風車で世界のマイクログリッドに適応

- 島嶼国や遠隔地の独立電源向けに、風車を使ったマイクログリッドシステムを導入、更なる普及に向けて事業化の枠組づくりに取り組む
- ディーゼル発電機などの燃料削減と化石燃料からの脱却を加速
- 土地利用に制約のある離島や遠隔地でも太陽光発電を活用できる上空式ソーラーシステムを導入
- DX・AI活用で保守業務の高度化によりライフサイクルコストを低減



### 自家電源・コミュニティ電源に最適な300kW風力発電機による脱炭素化とエネルギーの地産地消の推進

- 自社工場での再生可能エネルギーの利用拡大
  - 工場消費電力の約15.8%を風力発電で賄う(2020年度)
  - 風力発電による電気の約96%を工場で消費、休日や夜間の余剰分を電力会社へ売電
  - 排出権はグリーン証書化
- 三浦市宮川公園で売電事業
  - 公園内施設に風車の電気を供給し、非常用携帯充電器設置
- 工場設備の省エネ設備への転換



三浦市宮川公園に設置された風力発電機は夜間にライトアップされ、憩いの場として、地域の皆様にも親しまれています

## お問い合わせ先

## 株式会社 駒井ハルテック

住所 〒110-8547 東京都台東区上野一丁目19番10号

TEL 03-3833-5101

この資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。  
こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。  
将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。